

現代の思春期青年期を考える

*当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期研修機会(ワークショップ)」の承認を受けております。 <承認期間:2017年7月1日~2022年6月30日 承認番号:W29111>

期 日：2020年11月7日(土)・8日(日)

受講対象：小児科医師、精神科医師、臨床心理士、助産師、保健師、保育士、教師、社会福祉関係者など各機関・現場で子どもに関わる専門家および興味のある方々

定 員：80名(定員になり次第締切りますので、ホームページなどでご確認ください)

受講料：13,000円(税込み) ※昼食は各自おとりください

主 催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

会 場：明治安田こころの健康財団 講義室 ※詳細地図は受講証に添付いたします
東京都豊島区高田3-19-10

JR山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約7分

「太陽の季節」(石原慎太郎:1955)は、戦後の思春期青年期の様相を変えたと言われる。セックスの物質化の導火線になったとも。1960年になると、精神医学・臨床心理学の世界では、登校拒否・思春期やせ症・ひきこもり・家庭内暴力・手首自傷など、かつて見なかった新しい病態の出現に、専門家は困惑し、その対応に熱くなったものであった。

以来、60年の歳月が流れるなか、思春期問題は絶えず耳目を惹いてきたが、その様態も大きく変化してきたことは、あまり注目されてきたわけではないように思う。

本講座では、この60年の思春期問題を取り上げ、現代の精神科臨床に落としているその影を、各領域の専門家の目を通じて捉え直してみたいと考えている。現場の皆さんとの対話が生まれればと期待している。

【企画講師：市ヶ谷ひもろぎクリニック 名誉院長 牛島 定信】

<プログラム>

日程	時間	テーマ	講師(敬称略)
11月7日(土)	14:00~15:30	思春期青年期の臨床、この60年	市ヶ谷ひもろぎクリニック 名誉院長 牛島 定信
	15:45~17:15	不登校、ひきこもりの青年たち	社会福祉法人真生会 理事長 青木 紀久代
11月8日(日)	9:00~10:30	性被害をめぐって(思春期青年期ケースを中心に)	聖マリアンナ医科大学 神経精神科学教室 准教授 安藤 久美子
	10:45~12:15	児童精神科でみる逆境体験、発達障害の心の育ちを中心に	国立国際医療研究センター 国府台病院 児童精神科 医師・精神科副部門長 牛島 洋景
	12:15~13:15	(昼食)各自おとりください	
	13:15~14:45	最近の青少年の暴力 —触法ケースを通じて—	東京さつきホスピタル 精神科医師 遠藤 季哉
	15:00~16:30	社会文化的視点から見た現代の思春期青年期	筑波大学医学医療系 社会精神保健学 教授 斎藤 環

※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。予めご了承ください。